

表彰

軽金属学会第130回春期大会第1日目の5月28日(土)大阪大学吹田キャンパスにおいて、軽金属学会賞、軽金属学会功労賞、軽金属功績賞の表彰式を挙行政した。

第19回軽金属学会賞

軽金属学会賞は、一般社団法人軽金属学会の最高の賞であり、軽金属に関する学理または技術の進歩発展に顕著な貢献をした者に贈る。



里 達雄 君
東京工業大学 名誉教授
工学博士

1. 略 歴

- 1949年10月26日生(66才)
- 1974年3月 東京工業大学工学部金属工学科卒業
- 1976年3月 東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻修士課程修了
- 1979年3月 東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻博士課程修了 工学博士
- 1979年4月 東京工業大学工学部金属工学科助手
- 1988年5月～1989年2月 英国マンチェスター大学客員研究員
- 1991年4月 東京工業大学工学部金属工学科助教授
- 1999年8月 東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻教授
- 2012年4月 東京工業大学精密工学研究所先端材料部門教授
- 2015年3月 東京工業大学名誉教授

2. 主な受賞歴

- 1983年11月 軽金属奨励賞(軽金属学会)
- 1996年11月 軽金属論文賞(軽金属学会)
- 2000年11月 軽金属論文賞(軽金属学会)
- 2001年11月 軽金属論文賞(軽金属学会)
- 2003年5月 日本鑄造工学会論文賞(日本鑄造工学会)
- 2005年5月 日本鑄造工学会論文賞(日本鑄造工学会)
- 2006年5月 軽金属功績賞(軽金属学会)
- 2007年5月 日本鑄造工学会功労賞(日本鑄造工学会)
- 2007年11月 軽金属論文賞(軽金属学会)
- 2008年5月 日本鑄造工学会飯高賞(日本鑄造工学会)
- 2008年9月 日本金属学会論文賞(日本金属学会)
- 2011年11月 軽金属論文賞(軽金属学会)
- 2011年11月 軽金属学会60周年記念特別功労賞(軽金属学会)
- 2014年9月 日本金属学会論文賞(日本金属学会)
- 2014年11月 軽金属論文賞(軽金属学会)

3. 軽金属学会での主な活動歴

- 2001年6月 軽金属学会編集委員会委員長(2005年5月まで)
- 2001年6月 軽金属学会理事(2005年5月まで)
- 2004年11月 第107回軽金属学会秋期大会実行委員長
- 2007年6月 軽金属学会国際交流委員会委員長(2009年5月まで)
- 2007年6月 軽金属学会副会長(2009年5月まで)
- 2009年6月 軽金属学会会長(2011年5月まで)
- 2009年6月 軽金属学会組織委員会委員長(2011年5月まで)
- 2009年6月 第12回アルミニウム合金国際会議(ICAA12)組織委員長(2011年5月まで)

受賞理由

里 達雄 博士は、40年にわたって金属材料学の教育、研究に努め、その成果は軽金属に関するものだけで166編の学術論文、30編の解説・総説、10編の国際会議招待論文、17編の書籍として公表されている。また、論文賞10回をはじめ、軽金属奨励賞、軽金属功績賞、60周年記念特別功労賞などを受賞し、軽金属分野における広範かつ先駆的な研究を通して、本学術分野の発展に大きく寄与した。主な業績は以下の通りである。

アルミニウム合金の組織制御、製造プロセスおよび材料評価に関する学術研究として、主にアルミニウム合金の時効析出の基礎と応用、アルミニウム合金の鋳造技術、計算科学を用いた構造変化シミュレーションの研究などを展開し、さらにそれらの成果を実際の工業的製造プロセスに適用した。特に、微視的スケールの材料組織制御に関しては、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）実用金属材料分野ナノメタル技術開発プロジェクト「ナノアルミ」の研究代表者として大きな成果を上げ、ナノスケール構造の直接観察と解析、各種マイクロアロイ元素の役割と予測を行い、高性能合金創製のための重要な指針を構築した。これらの成果は、軽金属論文賞として結実している。

また、凝固組織微細化や半溶融凝固プロセスに関しても独創的な研究成果を上げており、科学技術振興機構（JST）産学共創基礎基盤研究プログラム「革新的構造用金属材料創製を目指したヘテロ構造制御に基づく新指導原理の構築」では、プログラム終了後の事後評価で「膨大な量の実験によって鉄の有用性が示され、素材の化学組成、加工-半溶融成形プロセス（D-SSF）条件と金属組織および特性の関係を定量的に明確にした点が本研究の最も大きな成果である」との高い評価を得た。これらはアルミニウム合金のリサイクル性をより高め、循環型素材製造法として確立する新たな指導原理となっている。

さらに、マグネシウム合金に対しても、各種時効硬化型マグネシウム合金の析出過程の詳細を明らかにし、クリープ特性に優れる新規マグネシウム合金を開発するなど多くの成果を上げており、これらの業績に対しても、論文賞などの高い評価を得ている。

一方、軽金属学会においては、会長、副会長、理事、編集委員会委員長、国際交流委員会委員長、組織委員会委員長を歴任し、その他にも第107回軽金属学会秋期大会実行委員長、第6回アルミニウム合金国際会議（ICAA6）運営委員会副委員長、第12回アルミニウム合金国際会議（ICAA12）組織委員長なども務めた。特に、横浜で開催されたICAA12では、各国のInternational Committeeと親密かつ建設的な関係を築き上げ、日本のアルミニウム研究ならびに産業の地位向上を図る主導的な役割を果たした。

以上のような、里 達雄 博士のアルミニウム合金ならびにマグネシウム合金に関する学理と技術の進歩発展、軽金属学会の学会運営に対する貢献は非常に顕著であり、ここに軽金属学会賞に値するものと判断し、表彰する。